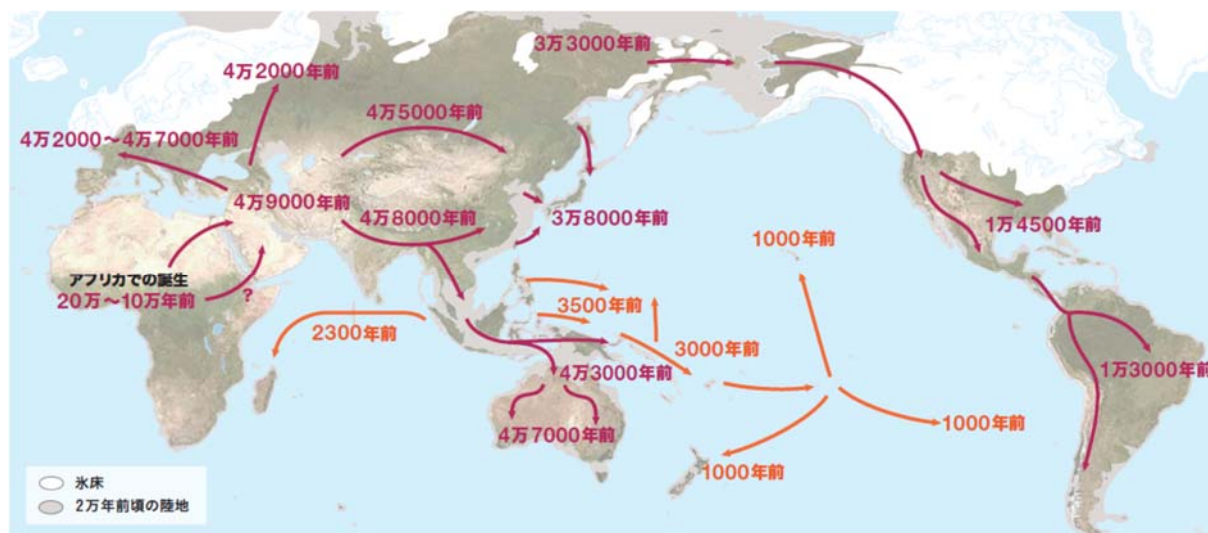




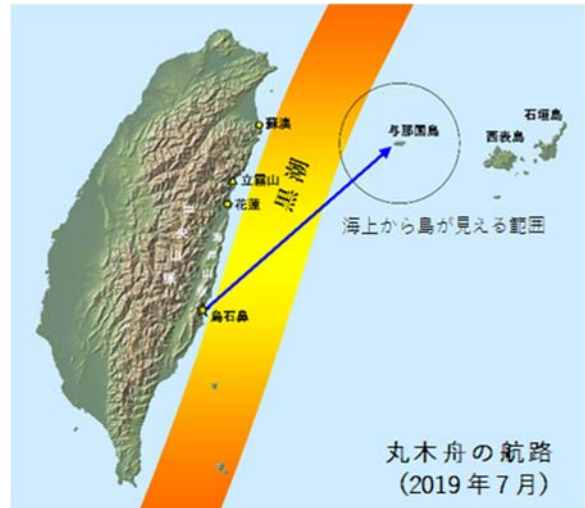
ホモ・サピエンスはアフリカで進化し、後期旧石器時代（約5万～1万年前）に5つの大陸へと急速に拡散して、これにより世界各地の現代人の基層ができた。この大拡散の波が日本列島に押し寄せ、現代へとつながる列島人類史がはじまったのは3万8000年前頃だが、かつての定説とは異なり、この時、祖先たちは海を越えてきたことが明らかになっている。



この日本列島への渡来は、人類最古段階の本格的海洋進出の一つであったばかりでなく、難易度という観点から興味深い。特に沖縄は注目すべきで、そこには秒速1～2メートルで流れる世界最大規模の海流・黒潮が流れ込み、隣の島が見えないほど広い海峡もある。それでも遺跡の証拠は、旧石器時代の祖先たちがそうした難関を越え、3万年前頃までに琉球列島全域に拡散したことを示している。

旧石器人は当時の技術で、どのように海を越えたのか。それはどれだけ困難な挑戦で、彼ら彼女らは、なぜそのような挑戦を決意したのか。こうした謎に迫るため、演者は前職の国

立科学博物館において「3万年前の航海 徹底再現プロジェクト」を企画・実行した。それは学術的根拠をもとに当時の舟を推定して復元し、自分たちで実際に航海を行い、祖先たちの海への挑戦を再現して理解しようとするものであった。2013年に企画し、数々の実験を行った本プロジェクトが、2019年7月の丸木舟による、台湾→与那国島への航海成功により完結したので、その模様を紹介する。



【参考資料】書籍：海部陽介「サピエンス日本上陸 3万年前の大航海」講談社 2020
記録映画：『スギメ』（Amazon プライム・ビデオ等でオンデマンド配信中）

< 演者略歴 >

人類進化学者。理学博士。1969年生まれ。東京大学大学院理学系研究科博士課程を中退し、国立科学博物館を経て、2020年より現職。約200万年におよぶアジアの人類史を研究している。クラウドファンディングを成功させ、最初の日本列島人の大航海を再現する「3万年前の航海 徹底再現プロジェクト」（国立科学博物館：2016-2019）を実行。著書に「サピエンス日本上陸 3万年前の大航海」（講談社 2020）、「日本人はどこから来たのか？」（文藝春秋 2016：古代歴史文化賞）など。日本学術振興会賞（2012）、海洋立国推進功労者表彰（2021）などを受賞。